

概要：宮城県リハビリテーション支援センター所長より当協会へリハビリテーション工学分野の支援協力について依頼があり、事前（5月29日～30日）視察にて、仮設住宅（箱塚桜団地）で浴室段差解消等のニーズがあげられたため、当協会が仲介し、矢崎化工株式会社様から宮城県に支援物資として提供された床からの立ち上がり支援用具（イレクターパイプ）を使用した浴室段差の解消、手すりのない居室内での対応を検討し、2011（平成23）年8月4日（木）～13日（土）各SIGより協力メンバーを募り、現地での組み立て加工作業、ご希望世帯の要望調査、完成品の納品・設置を行った。その後のフォローは仙台高等専門学校建築デザイン学科熊谷研究室にお願いした。今回、支援から3ヶ月が経過し、アフターフォローと冬季対策を含めたニーズ抽出のため再び支援に入った。また今回は何箇所かタイプの違う仮設住宅を視察し、今後の仮設住宅への改善点等の抽出を行った。

1. 冬対策（壁面や玄関の冬対策がなされたので、それを踏まえての対策）
2. 夏に行った踏み台等のアフターフォロー
3. その他のニーズの抽出

実施日：2011（平成23）年11月25日（金）～27日（日）

視察者：相良二郎（一般社団法人日本リハビリテーション工学協会会長、SIG住まいづくり）

沖川悦三（一般社団法人日本リハビリテーション工学協会副会長兼東日本大震災復興支援に関する専門委員会委員長、車いすSIG）

森田千晶（日本リハビリテーション工学協会会員、車いすSIG、杏林大学）

玉垣努（日本リハビリテーション工学協会会員、車いすSIG、神奈川県立保健福祉大学）

深野栄子（一般社団法人日本リハビリテーション工学協会事務局長、車いすSIG）

吉田泰三（機関間のコーディネーター、日本リハビリテーション工学協会会員、東北文化学園専門学校）

目白大学学生（上條隆裕、長門麻美）

仙台白百合女子大学学生（及川舞、大森絵美子、小笠原史乃、鎌田美駒）

11月25日（金）13:00 JR名取駅集合

場所：

- ① 仙台高等専門学校（名取キャンパス）建築デザイン学科熊谷研究室（以下、仙台高専）
→宮城県リハビリテーション支援センター（以下、リハ支援センター）
- ② 名取市仮設住宅 箱塚桜団地（宮城県名取市箱塚）

参加者：

- ① 相良二郎、沖川悦三、森田千晶、吉田泰三、深野栄子
- ② 玉垣努、目白大学学生2名、仙台白百合女子大学学生3名

活動内容：

- ① 夏の支援後のフォローをお願いした、仙台高専を訪問し、貴校で10月に実施したアン

ケート結果を元にフォロー状況および経過、今後の支援活動予定（アンケート調査で収納が少ないことへのニーズの高かったため、押入れに設置する棚の試作テストを実施予定。）についてのお話を伺った。

その後、リハ支援センターを訪問し、樫本所長と宮城県他被災地の現状についてお話を伺い、情報交換を行った。なお今回の目的として、夏に支援に入った箱塚桜団地は高齢者が多く、風除室を設置したことによる環境の変化や冬を迎えるにあたり新たなニーズが発生しているか等の調査を実施することを報告した。

- * 復興支援住宅は宮城県が管轄であるため情報が入ってこない。仮設住宅への用具の提供や運動機能の相談等は、現場窓口が保健所であり PT・OT が個別に相談対応していて、依頼があればリハ支援センターとして動く現状であり、手すり設置や段差解消の相談が挙がってきている。冬を迎えるにあたっての寒さ対策（暖房面、風除室設置等）は仮設住宅全体への対応が必要となりリハ支援センターの領域を越えている。住居生活の QOL 改善は宮城県住宅課の管轄となる。
- * 難病関係での関わりが出るとすれば、リハ支援センターで対応したケースのみである。福祉保健センター（福祉事務所）に元々難病支援を担当している課があり台帳を持っているので誰がどこに避難したかの情報はあはず。県では脊損・頸損者の情報を持っていない、身障手帳・自立支援法の申請関係で市町村の方が情報を持っている。県にあがってくるのは医療的な部分ではなく、福祉的な部分のみ。福祉サービスは（直接被災した所は別として）ほぼ復活してきている。
- * 仮設住宅の次の段階が県営住宅レベルだとすると障害者には厳しいかもしれない。大規模災害時の用具供給のつなぎとして、強化ダンボールは処分もしやすく有効であるが、次の段階で何を提供できるかが課題。人的な支援は、元々不十分だったものを充分満たすのは難しい。
- * 被災時、障害者がどう動いたのか？ どう用具を手に入れたのか？ 何が足りなかったのか？ などの現場の声が聞こえてこなかった。現場調査を実施し被災時の当事者ニーズを探る（抽出する）ことで、次の支援につながるのではないかと？
- * 日本リハビリテーション工学協会を通しての物資支援は有効だった。ただし避難所は狭くベッドも入れられず、トイレにも困る状況だった。生活していくことが優先であり、福祉用具は支援物資として集めにくい。応急的に出せる福祉用具が各地域にストックできればよいが保管場所的にも無理なので、サテライト的に蓄えておき、災害が起こった地域へ回せるようにすることができるか？
- * 震災時の検証作業は、各機関では行っているところもあるが、県全体としてはまだ動いていない。災害対策マニュアル作成について、リハビリテーション医学会では着手し始めている。
- * 日本リハビリテーション工学協会を通して集まった支援物資は、つい先日石巻の研修会后、需要があり全部提供された。協会としては施設が流された所でもう需要がないのか知りたいので、現場の PT・OT に確認して吉田氏を介して連絡してもらうことになった。リハビリテーション医学会誌への執筆の際、日本リハビリテーション工学協会を通して集まった支援物資について一文掲載された。個人への提供はなく、無償貸与とし（リハ支援センターのシールを貼って）、介護保険または自立支

援法で支給された際には返却してもらう手順がよい。

② 箱塚桜団地福祉用具支援プロジェクト アンケート調査票を作成（目白大学作成）し、夏に完成品を納品したお宅を訪問して、納品したものが使用されているか、当初の目的どおりに使用されているかと現在必要なものがあるかどうか等のヒアリング調査を実施し、結果概要は次のとおりだった。

- * 福祉用具作成世帯数 38 世帯中、34 世帯（89.5%）、62 個の福祉用具についての聞き取りを実施。
- * 62 個中 56 個使用していた（66%）。夏は使用していたが、寒くなって保管しているケースが 3 件あった。
- * 62 個中最初の目的と同じ目的の使用は 37 個（59.7%）であった。
- * 平均満足度は 7.4559/10 であった。

- * 風除室が設置されたが、スロープ棟は屋根のみであり寒さがしのげない。またスロープ棟の入口は 3 段の階段となっており、手すりは踊場のみで、1 段目からないと意味がない。
- * 風除室は物入れとして使用できる。
- * 室内温度は 10℃で室外温度と一緒にあった。ヒートショックの心配がある。縁の下は 7℃だった。
- * 断熱材は居室のある壁面のみを設置であるため、浴室、台所はかなり寒い。
- * 浴槽内踏み台はほとんど使用されていなかった。浮いてしまうなど不安定であり恐怖感につながったようだ。
- * 現在通路はスロープ棟前を除き砂利道であるが、今後舗装される予定である。

11 月 26 日（日）

■午前

場所：名取市仮設住宅 箱塚桜団地（宮城県名取市箱塚 1-12）

参加者：相良二郎、沖川悦三、森田千晶、玉垣努、吉田泰三、深野栄子、目白大学学生 2 名、仙台白百合女子大学学生 3 名

活動内容：前日のヒアリング調査の続きを行った。

■午後

場所：宮城県女川町→宮城県女川町総合運動場仮設住宅（宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原 女川町総合運動公園内野球場）

参加者：相良二郎、沖川悦三、森田千晶、吉田泰三、深野栄子

活動内容：被災地および仮設住宅（コンテナを積層させた多層式仮設住宅）視察

福島県に支援に入っている協会員の吉川和徳氏（ふつうのくらし研究所、PT）と女川町で被災した佐藤友視氏（女川町老人保健施設、PT、グループ「女川福幸丸」代表）の案内により、町の中心地が港に面した平野部に集中していたため壊滅的な津波被害を受けた女川町を訪れた。瓦礫は撤去され、地盤が沈下し道路を境に町全体が水没し建物の基礎のみが見えていた。ある水没した基礎を指差し「ここに家があったんです。でも全員高台に非

難でき無事だったんです。」と案内してくれた女川町民の佐藤氏が説明してくれた。横倒しになったビルがいくつか残されていたが、これは津波被害の研究資料として保存されるそうだ。

海を背に振り返り向き見上げたところにある、多くの町民のみなさんが避難し助かったという女川町立病院に移動した。海拔 16m の高台に建っているが、津波は病院の 1 階まで達したという。病院の駐車場からは沿岸部被災状況が見渡すことができ、そこにはたくさんのお花やペットボトルが手向けられていた。

病院をあとにし、全国で最後の応急仮設住宅建設地となった女川町総合運動公園内野球場に向かった。坂茂建築設計+ボランティア・アーキテクト・ネットワーク (VAN) 建設による、平地の少ない被災沿岸部での仮設住宅用地不足の解決策として SHIPPING コンテナ(20 フィート)を市松模様に積層させた 2~3 階建の多層式仮設住宅と付帯するコミュニティ施設を視察した。外観はちょっとおしゃれなアパートに見える。既存のプレハブ平屋型仮設住宅の内部は十分な収納がなく収納に対する不満が多く聞かれるが、今回、入居後のお部屋を拝見させてもらった多層式仮設住宅は、壁面収納が取り付けられ、十分な収納スペースが確保されていた。野球場内に建設されているため、夜間はナイター照明が点灯し防犯対策にもなっていた。この日はアメリカの家具メーカー「ハーマンミラー社」が、被災した人たちと一緒に仮設住宅で使う家具作りワークショップが開催されたらしく、帰り際、夕暮れの中、ハーマンミラー社の職人さんたちが手を振ってくれた。

11 月 27 日 (土)

■午前

場所：桑折駅前仮設住宅 (福島県伊達郡桑折町,福島蚕糸跡地)

参加者：相良二郎、沖川悦三、森田千晶、玉垣努、吉田泰三、深野栄子

活動内容：仮設住宅視察

福島県に支援に入っている協会の吉川和徳氏 (ふつうのくらし研究所,PT) の案内により、福島県で最初に完成した桑折駅前仮設住宅を視察し、桑折町長の高橋氏にお話を伺った。ゴールデンウィーク明けの完成にも関わらず入居者が決まらず、大津波によって町の沿岸部が壊滅的被害を受け、さらには福島第一原子力発電所事故による放射能漏れにより長期的な非難を余儀なくされた福島県双葉郡浪江町を受け入れた。桑折駅から徒歩 5 分の 5ha もの広大な敷地に 300 戸建設し、桑折町内で 14 戸入居し、残りの 286 戸が浪江町分とされたが 40 戸ほど空いている状態。まだ 2ha 分の土地が空き地のため、復興支援住宅も建設可能であるが、その際にはぜひ全戸バリアフリー化を実現してほしい。

桑折町は皇室にも献上するほどの桃の産地であるが、震災以降除染が続いている。地域格差、世代格差もあり、お釜を分けてお米を炊く現状もある。

玄関にスロープが必要な世帯には後付け対応している (風除室にドアはなくなる)。風除室を設置しても通路は広く、玄関前は舗装されている。

仮設住宅内で相談役をしている、社会福祉法人創世福祉事業団介護保険施設事務局長の菅野氏にもお話を伺った。元々漁業を営んでいたが、船が流され臨時雇用で現職に就いたそうである。最近大夫落ち着いてきている。自治会がしっかりできており、ハード面での要望は自治会で取りまとめて行政へ挙げている。集落単位ではないが、なるべく同じ地区

で入居している。原発からの避難であるため、15歳以下の若い人はもっと遠方へ避難しており高齢率が高いが、駅に近いこともあり生活しやすく、近隣にクリニックもあり歩いて通院している。仮設に入居後ひとり暮らしになった世帯もあるが、寝たきりでひとり暮らしの人はいない。要介護認定を受けている人は400人中50人くらいでケアマネさんに相談してもらっている。住民票は浪江町のままなので、桑折町の制度を使用し、仮設入居後に介護認定を受けた人もいる。視覚・聴覚の不自由な人、車いす使用者は高齢者のみである。浪江町は浜通り地方で雪が降らなかったため、これから訪れる冬をみな心配している。相談員としてお宅を訪問する場合にも、暖まったお部屋が玄関を開けることで冷えてしまうことが今から心配である。原発からの避難のため、家に損傷がない人が多く、いつ帰れるのか、帰れる日を待ちながらの仮設入居である。支援相談員もほとんどが臨時雇用であるため、毎日いろいろなケースのも図れる。

■午後

場所：美田園第二団地（宮城県名取市美田園 5-2-3）→美田園第一団地（宮城県名取市美田園 1-8-1）

参加者：相良二郎、沖川悦三、森田千晶、吉田泰三、深野栄子

活動内容： 仮設住宅（住宅メーカー木造構造仮設住宅）視察

プレハブメーカーではなく、住宅メーカーの仮設住宅を外観だけであったが視察した。住宅メーカー（住友林業）木造構造の仕上げで屋根なども近代的構造で、住友林業の家・センケンホームの得意分野を生かした建築ということで、隣市町と比較しても豪華版の木造構造だった（間取はプレハブと同じ）。プレハブメーカーの仮設住宅で問題点とされていた、軒下、雨樋もあり、両居室とも履き出し窓だった。

仮設住宅名・所在地	概要	戸数・間取り	玄関	居室・収納	浴室	トイレ	その他
箱塚桜団地 宮城県名取市箱塚 1-12（県立精神医 療センターグラウ ンド）	プレハブメーカー	102戸 2DK 1DK 3K エアコン1基 居室側面のみ断熱 材 スロープ棟前のみ 舗装	引き戸 風除室設置 スロープ設置1棟 スロープ棟は通し で屋根（雨樋付） 設置、入口は3段 の階段で地面から 1段目にかけての 手摺がない。手摺 は踊場のみで通路 にはない。	2室共腰高窓 軒下・庇なし 雨樋なし 断熱材が入り二重 窓に 物干し1室	入口2段（1段目 13.5cm、2段目 17cm、内側段差 12cm） 浴槽サイズ：幅 110cm 奥行？ cm 高さ58cm 深さ 55cm	入口段差無 外開きドア（レバ ー式） 横手摺	
宮城県女川町総合 運動場仮設住宅 女川町コンテナ仮 設住宅 宮城県牡鹿郡女川 町女川浜字大原	坂茂建築設計+ボ ランタリー・アー キテクツ・ネット ワーク（VAN）。 平地の少ない被災 沿岸部での仮設住 宅用地不足の解決 策として SHIPPING コンテナ（20フィ ート）を市松模様 に積層させた2,3 階建多層式仮設住 宅。	189戸 1R 2DK・1LDK 3LDK エアコン1基 球場内に建設のた めナイター照明有	ドア	1室履き出し窓 もう1室は腰高窓 軒下・庇なし 雨樋あり 合理的な壁面収納 をボランティア の手で取り付け、 十分な収納スペ ースを確保 物干し1室（履き 出し窓）		入口1段●cm 外開きドア（レバ ー式） 縦手摺	付帯コミュニティ 施設として、集會 所、マーケット、 図書室やアトリエ として利用される 生涯学習センター （音楽家の坂本龍 一氏、日本画家の 千住博氏による寄 贈）を 建設。
桑折駅前仮設住宅 福島県伊達郡桑折 町（福島蚕糸跡地）	福島県で最初に完 成した仮設住宅。 入居者が決まらず （借上げアパート 入居者が多い）福 島県双葉郡浪江町 を受入れ。	300戸（町内14戸、 浪江町分286戸中 40戸程空き） 2DK 3K 居室側面のみ断熱 材 玄関前は舗装 ペット可	引き戸 風除室設置 スロープ設置は希 望者に後付対応の ため、風除室にド アがなく、スロー プは屋根も囲いも ない。	2室共腰高窓 庇あり 物干し2室	入口段差●cm 入口縦手摺 浅めの浴槽 浴室縦手摺	入口段差無 外開きドア（レバ ー式） 横手摺	徒歩5分以内にス ーパーマーケット 、コンビニ、JA 野菜市場、日曜大 工センター、内科 医院、歯科医院あ り
美田園第二団地 宮城県名取市美田 園5-2-3（下増田 飯塚地区）	住宅メーカー（住 友林業）木造構造	120戸 各棟に壁面アート イラストレーター 黒田征太郎氏作	引き戸 風除室・玄関踏み 台が設置 手摺は各家毎 スロープ（折返し） 設置2棟	2室共履き出し窓 軒下あり 雨樋あり 簡易階段配布中 物干し1室			

<p>美田園第一団地 宮城県名取市美田園 1-8-1 (下増田前田地区)</p>	<p>住宅メーカー(住友林業)木造構造造豪華構造です。(間取はプレハブと同じ)</p>	<p>128戸 各棟外壁カラー・模様が異なる ペット可</p>	<p>引き戸 最近大工さんにより風除室・玄関踏み台が設置 手摺は各家毎 スロープ設置?棟スロープごと風除室として覆われているが(1箇所途中に階段で下りられるようになっていて)、部分毎に開閉可能になっている。</p>	<p>2室共履き出し窓 軒下あり 雨樋あり 物干し1室</p>			<p>ホームセンタービバホーム、カワチ薬局</p>
--	---	---	---	---	--	--	---------------------------

■ 東日本大震災復興支援に関する専門委員会としての対応

-